

## Thrombolytic therapy for stroke in patients with preexisting cognitive impairment

村尾, 恵

<https://hdl.handle.net/2324/4060263>

---

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名：村尾 恵

論 文 名：Thrombolytic therapy for stroke in patients with preexisting cognitive impairment (発症前の認知機能低下が rt-PA 静注療法の前後に与える影響：OPHELIE-COG 研究)

区 分：乙

### 論 文 内 容 の 要 旨

目的：脳梗塞発症前の認知機能低下が、組み換え型組織プラスミノゲン活性化因子 (recombinant tissue plasminogen activator: rt-PA) 静注療法が施行された急性期脳梗塞患者の転帰に与える影響を調べることを目的とした。

方法：OPHELIE-COG研究は急性期脳梗塞に対してrt-PA静注療法が施行された患者を対象とした日仏共同多施設前向き観察研究であった。脳梗塞発症前の認知機能は簡略化the Informant Questionnaire on Cognitive Decline in the Elderly (IQCODE)を用いて評価し、IQCODEの平均点が3を上回る症例を発症前認知機能低下ありと定義した。主要評価項目は発症3ヶ月後の機能転機良好[modified Rankin Scale (mRS) 0-1 (明らかな障害なし)]とした。また副次評価項目は症候性頭蓋内出血、発症3ヶ月後のmRS 0-2(日常生活自立)、そして死亡とした。本研究の症例にBiostrokeとStrokedemの症例を合わせ、プール解析も行った。

結果：全登録症例205例中、62例(30.2%)が発症前認知機能低下ありの基準を満たした。発症前認知機能低下あり群は発症前認知機能低下なし群と比較して11歳高齢であった(p値<0.001)。発症前認知機能低下あり群は症候性頭蓋内出血の頻度が多く、発症3ヶ月後に日常生活が自立(mRS 0-2)している頻度は少なかったが、年齢、rt-PA投与直前のNIHSSスコア、発症から治療開始までの時間で調整した後は、全評価項目において発症前認知機能低下の有無で有意差を認めなかった：症候性頭蓋内出血(オッズ比[OR] 2.78; 95%信頼区間[CI] 0.65-11.86), mRS 0-1(OR 0.82; 95% CI 0.41-1.65), mRS 0-2(OR 0.62; 95% CI 0.28-1.37), 死亡(OR 0.40; 95% CI 0.08-2.03)。プール解析の結果においても、発症前認知機能低下の有無と評価項目の間に有意な関連を認めなかった。

結論：発症前認知機能低下があるとの理由だけのために急性期脳梗塞に対する rt-PA 静注療法を控えるべきではない。しかしながら、重度認知症と重症脳梗塞例への rt-PA 療法の有効性と安全性に関しては更なる検討が必要である。